

神奈川県新聞

【2013年3月3日付】



横浜市神奈川区の市立白幡小学校で1日、同校5年3組の児童33人とチュニジアの子どもたちが、インターネットのテレビ電話を通じて交流会を開いた。両国の子どもたちが半分ずつ作って完成させた横約3.6m、縦約1.5mの大きな絵画が披露され、互いの文化を紹介し合った。

絵画は、テント用の布に自国の名所と相手の民族衣装を描いた。中央に地球があり、両側の国旗から虹が延びるデザインは、先に白幡小の児童が右半分を制作し、チュニジアに郵送して作り上げられた。

交流は、同校に勤務していた教員が昨年4月から青年海外協力隊員としてチュニジアの学校に赴任

チュニジアと
横浜の子ども
テレビ電話で交流

巨大絵画を合作

した縁で始まった。同校は昨年9月から、異なる国の子どもたちが1枚の大型絵画を共同制作する国連教育科学文化機関（ユネスコ）認定の「アートマイル壁画プロジェクト」に参加。今年6月に横浜市で開催されるアフリカ開発会議に向けて展開する一校一国運動にも加わり、チュニジア大使館の文化参事官などを招き、理解を深めている。

交流会では、大型絵画が披露されたほか、同校の児童が浴衣姿で登場したり、羽子板遊びを実演したりした。テレビ電話を通じて「チュニジアで流行しているものは何ですか」「フェイスブックがはやっています」などと会話し、交流を深めた。（吉田 太一）



浴衣姿で日本文化を紹介する白幡小の児童たち。右上はテレビ電話で会話するチュニジアの子どもたち
|| 横浜市神奈川区